

◆自分の進路先を紹介しよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態

対象学級は、軽度の知的障害のクラスである。卒業後の進路選択に向けて、進路学習、職場見学、現場実習、ケース会議等を進めてきた。クラスメイトの進路にかかわる実習については、様々な進路先、職場があることを学んできた。また、卒業後にかかわる関係機関とのつながりを意識して『相談支援事業所』や『就業・生活支援センター』などとかかわりを深めてきた。実習の報告を『就労・生活支援センター』の担当者に生徒が直接電話したり、実習先を選択するための見学同行を『相談支援事業所』の方に生徒から直接お願いしたりするなどの活動を意識して行ってきた。4月には、2グループに分かれ、自分と関わりのある『相談支援事業所』や『就業・生活支援センター』を訪問し、その様子をタブレット型端末を利用して生徒たちは記録をとり、クラスや現場実習事前指導の場で発表した経験も積んできた。この校外学習から発表で支援機関との関係がさらに身近に感じたようである。

また、本クラスは、昨年度末、先輩達の進路先を紹介してもらったり、支援員と懇談会を行っているので、卒業を控えた今、自分たちが後輩達に自分の進路先を紹介したり、進路選択までの過程を紹介することは、イメージとして持っている。

今回の学習は、自分で考え、納得して選択した進路先をあらためて取材することで、卒業後の生活を具体的にイメージし、心の準備をすると共に、後輩達に発表する機会を持つことで、今までの活動を振り返り、自分の将来に自信を持つための一助となることを願う。加えて、後輩達にとっても一番身近な先輩の進路選択までの過程や進路先の様子を先輩自身が撮った記録から知ること、次年度の自分の活動に安心してチャレンジしていけるような時間となることを願う。

2 指導目標（児童生徒同士の間関係の形成やコミュニケーションの促進に係る目標）

- ・自分の進路先について、タブレット型端末で取材した映像を紹介できる。（コミュニケーション手段の選択と活用）
- ・進路選択までの道のりや頑張りを発表できる。（コミュニケーションの基礎的能力に関すること）
- ・発表に対しての質問に答える。（言語の受容と表出に関すること）

3 取組の中心となる教科・領域等

- ・生活単元学習

4 使用したアプリ、周辺機器

- ・アプリ…カメラ、写真
- ・周辺機器…プロジェクター、マイク、テレビ

5 指導の経過及び児童生徒の変容

<学習の過程>

第1回校外学習事前指導	生活単元学習で見学先について学ぶ
美術の学習活動でタブレット型端末の利用を学ぶ（4月中旬～下旬にかけて）	
第1回校外学習（4月30日（木））	2グループに分かれて、相談事業所、就労・生活支援センターの見学（タブレット型端末で記録を取る）
校外学習の記録の発表（5月1日（金））	クラスでの発表（タブレット型端末の記録で報告）
第2回校外学習事前指導	生活単元学習で見学先について学ぶ
第2回校外学習	クラスメイトの実習を見学（タブレット型端末で記録を取る）
『進路を語る会』についての事前指導	生活単元学習で取材の準備を行う
校外学習（各自、タブレット型端末を使用した取材）	
『進路を語る会』での発表の準備	生活単元学習
『進路を語る会』での発表	特別日課

<生徒の変容>

この活動をしていくなかで感じたことは、卒業後の進路を決定していく過程で、卒業後に関わる地域の支援者とのつながりが深くなり、主体的な関わりができたことである。初めは、距離間のあるやりとりをするような関係だったものが、訪問・見学、ケース会議、電話での報告などの主体的な活動を重ねていく中で、何かあったときには、気軽に話ができる関係に変化したと感じる。加えて、主体的に自らの進路先を取材し、発表する活動は、卒業後の生活に対して意識が高くなったのと同時に、『自分のことは自分で』という主体的な態度の育成につながった。

訪問・見学の様子を自らタブレット型端末を用いて記録に取することは、校外学習がより主体的な活動となり活性化するとともに、実際の発表もしやすくなった。特に文章表現が苦手な生徒にとっては、タブレット型端末の記録を写すだけでよいということは、発表のハードルが下がり、活動の幅が広がった。



6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

- 各自がタブレット型端末を持てたことで、自分の興味のあるものを主体的に記録できた。その記録を基に発表を計画できたので、本人の思いを表現しやすかったのではないかと思う。
- 自分の進路を取材することで、卒業後の生活をより具体的にイメージし、卒業に向けた覚悟ができたのではないかと思う。
- タブレット型端末で記録をとることは、スマートフォンなどが身近にある生徒たちにとっては、負担感が少なかったように思う。さらに読み書きが苦手な生徒にとって、取材内容を映像を用いることで文章化せずに済んだことは、負担が少なかったと感じ、主体的な活動を活性化したと思う。